

※※※

平成25年度
議会報告会
会場別開催概要

※※※

議会報告会開催概要（音別地区）

開催日時	平成 25 年 10 月 23 日（水）14：00～15：01
開催場所	音別町コミュニティセンター（研修室）
参加人数	3 人
出席議員	<p>黒木 満議長</p> <p>月田光明副議長 ～質疑応答・意見交換進行役</p> <p>高橋一彦議員（議会運営委員長）</p> <p>菅野 猛議員（総務文教常任委員長）</p> <p>宮田 団議員（総務文教常任委員）</p> <p>畑中優周議員（経済建設常任委員長）</p> <p>松永征明議員（経済建設常任委員）</p> <p>大島 毅議員（民生福祉常任副委員長）</p> <p>渡辺慶藏議員（民生福祉常任委員）</p> <p>土岐政人議員（石炭対策特別委員長）</p> <p>松橋尚文議員（広報特別委員長）</p>
質疑応答の内容	<p>問：釧路市民球場において、プロ野球チームの試合がしばらく行われていないが、将来試合が開催される見通しはあるか。</p> <p>菅野：市民球場は相当大規模な改修をしないと、プロ野球の試合開催は難しいと思われる。今後部分的に直していくが、この先改修を進めた上で球団と協議していくことになると考えている。</p> <p>問：道東自動車道の白糠インターチェンジが供用となるが、災害により国道 38 号線が不通となった時に備え、音別から同自動車道につなげる道路の整備が必要と考えるが、議会でも検討していただきたい。</p> <p>畑中：災害時に道東自動車道に通行できる道路の設置について、国へ要望を行っている。議員も、そうした道路の必要性は理解しており、今後議会の中でも議論していきたい。</p> <p>問：来年、音別町行政センターの新庁舎が建設となるが、旧町時</p>

代から建築資金を造成していたこともあり、新庁舎は地域のシンボルになると期待している。

月田：要望ということだと思うので、この点については、本日来場している音別町行政センター長にお話しいただきたい。

センター長：先ほどの災害時の道路の件だが、音別には地形的にもインターチェンジの設置は難しい。できれば現在工事車両が通行している道路を整備し、災害時に限り自動車道に通行できるようになればよいと考え、検討している。

また行政センター庁舎は、津波対策のため3階建てとし、庁舎屋上は津波発生時には避難所となる。また地元カラマツ材の内装材への活用や、1階多目的ホールの暖房としてペレットストーブの活用を予定している。

菅野：旧町時代の積み立てはあるが、今回の庁舎の建設費は5億円ほどで、積み立てた金額以上の予算がついており、センター長のというような地域材の活用や避難所としての利用ができるようにしているので、安心していただきたい。

問：津波が発生した時の、具体的な避難方法を市民に丁寧に周知してほしい。また、高速道路につながるまでも、広域農道の利用も含めて、避難道路の確保についても検討してほしい。

菅野：8月に津波ハザードマップを全戸配付している。特に音別は避難困難地域に指定されており、具体的な避難方法は市で検討しているところだが、実際に大勢が車で避難すると渋滞などで新たな被害が発生するということも予想され、今のところ確実な避難経路、避難方法はできていないととらえている。

月田：まずは今回、マップを配付して浸水区域をお示ししている。避難方法についてはさまざまな課題があるが、これをクリアして、市民の皆さまに安心していただけるようにしたい。

畑中：迂回道路の整備は必要なことと考えている。市道については議会で議論し、それ以外の道路は国や北海道に働きかけていく。また、避難のための道路、避難した後の救出のための道路の確保についても重要であり、しっかり議論していきたい。

議会報告会開催概要（釧路地区）

開催日時	平成 25 年 10 月 23 日（水）18：00～19：21
開催場所	コア鳥取（研修室兼学習室）
参加人数	17 人
出席議員	<p>黒木 満議長</p> <p>月田光明副議長 ～質疑応答・意見交換進行役</p> <p>高橋一彦議員（議会運営委員会）</p> <p>金安潤子議員（総務文教常任副委員長）</p> <p>草島守之議員（総務文教常任委員）</p> <p>畑中優周議員（経済建設常任委員長）</p> <p>酒巻勝美議員（経済建設常任委員）</p> <p>大澤恵介議員（経済建設常任委員）</p> <p>秋田慎一議員（民生福祉常任委員長）</p> <p>山口光信議員（民生福祉常任委員）</p> <p>土岐政人議員（石炭対策特別委員長）</p> <p>松橋尚文議員（広報特別委員長）</p>
質疑応答の内容	<p>問：北大通が寂しくなっているが、その原因についてどう考えているか聞きたい。</p> <p>畑中：個人的な意見になるが、近年大型商業施設が郊外に建てられ、そちらに人の流れが向かっているのが現状となっており、商売される方が北大通に根をつけてくれるとありがたいが、それも難しい状況にあると認識している。今後も何らかの方法で北大通の活性化に向けて取り組んでいく必要があると考えている。</p> <p>酒巻：釧路市では現在、新しい中心市街地活性化基本計画の検討をしているところだが、防災の観点も踏まえながら、行政だけでなく民間も一緒になって、中心市街地の 20 年、30 年先を考えた計画を、議会で議論していきたい。</p> <p>大澤：明るい話題もあり、大型客船が耐震岸壁に入港することで、乗客が中心市街地で買い物をしていく事例が増えてきている。また、テナント料が安くなってきているため、新たに起業した</p>

いという声も聞いている。

問：釧路に若い人が定着しないことについて、どう考えているか。

金安：一つには、働く場所がないということがある。学力の伴わない子どもは地元企業が雇わず、逆に学力が高い子どもは市外へ流れ出ていくという状況があるため、地元で力を発揮できる人材を育成することが重要と考える。

畑中：仕事はあるのに、選んでいる傾向もあるのだと思う。また、働いても辛いといってすぐ辞めてしまう。市では子供たちを対象に職場体験事業を行っているが、大人が子供に対して働くことの意義を教える機会が必要だと思う。

秋田：自分に合う仕事がないという若年層がいる。そうした若い人たちの多様性を受け入れる地場産業がないということもあるが、大人が様々な業態の中で、働くことの大切さを教えていくべき。

問：西港の今後の整備と活用の見通しはどうなっているのか。

畑中：釧路港は国際バルク戦略港湾として選定を受けたが、今年度は国からの大きな予算はつかなかったため、予算獲得に向けた活動を行っている。付随して、荷揚げした荷物を港湾から市外へ運ぶための道路整備が進んでいる。西港の港湾環境を整備することで釧路市の経済が上向きになるので、早めに荷物の受入体制を整えていきたい。

問：西港第5埠頭の建設計画はあるのか。

畑中：第5埠頭の計画はないが、現在、新西防波堤の整備を行っている。

問：市の説明会（釧路市津波避難計画等住民説明会）で、災害時はFMくしろを聞いて、自助・共助に努めてほしいという話があった。先日の台風18号の時もFMくしろやフェイスブックの情報が正確で早かったと感じたが、停電の場合やFMくしろの電波を受信しにくい地域もあることから、こういったネットを活用した情報提供について、もっと周知してほしい。

金安：FMくしろだけでは不十分と考えており、タクシー会社か

	<p>らの情報やフェイスブックなどの情報を生かすことについて検討するよう、市へ強く要望したところである。</p>
	<p>問：北大通が寂しくなっている問題については、狩猟民族のように、そこにあるものを獲るではなく、農耕民族が将来に向け種をまくような意識で進めていくのが良いと思う。</p> <p>月田：提言として受け止めさせていただく。</p>
	<p>問：議会報告会の開催について、市のホームページでの周知が遅かった。</p> <p>松橋：実施方法については、これまでのやり方を踏まえ試行錯誤しながら決定していることもあり、周知が遅くなった。ホームページについては、開催日程が決まり次第すぐに更新するようになりたい。</p>
	<p>問：釧路港が国際バルク戦略港湾に選定されたことを受けて、雇用の創出や広域的な地場加工も見据えた、農業の6次産業化に向けて動いてほしい。</p> <p>畑中：行政が直接動くことは難しいが、民間企業が声を上げてくれれば、それを受けて協力できることはやっていく考えである。</p>
	<p>問：津波対策については、市民への説明が不十分だと思う。</p> <p>金安：先般の説明は、ハザードマップができたということの説明にすぎないと思う。町内会等で市の担当者呼び、避難方法等を勉強している地域もあるので、是非市に問い合わせをして欲しい。</p> <p>草島：津波ハザードマップが完成したことの周知を行い、自分の住んでいる地域が津波発生時にはどの程度危険なのかを理解し、速やかに非難するという自覚をしてもらう。今後、さらに救済策を進めていく。</p> <p>月田：市に講師を依頼するとすぐに対応してくれるので、少人数でも構わないので、講師の説明を聞きながら、是非いざという時のための想定をしていただければと思う。</p>

<p>議会への 意見・要望</p>	<p>問：政党や議員の後援会の看板が、市営住宅や学校など公共用地に掲示されているので、これらを撤去してほしい。</p> <p>月田：正副議長から、各会派へ申し伝える。</p>
<p>市への 意見・要望</p>	<p>問：薬局の看板が道路上に無断で設置されているので、撤去に向けて取り組んで欲しい。</p> <p>月田：経済建設常任委員長から、道路管理者へ申し伝えることとしたい。</p> <hr/> <p>問：市の職員は、電話を受けても自分の名前を名乗らない。厳しく教育すべき。</p> <p>月田：総務文教常任副委員長から、総務部長へ申し伝えることとしたい。</p>

議会報告会開催概要（阿寒地区）

開催日時	平成 25 年 10 月 24 日（木）14：00
開催場所	阿寒町公民館（研修室兼学習室）
参加人数	0 人
出席議員	<p>黒木 満議長</p> <p>月田光明副議長 ～質疑応答・意見交換進行役</p> <p>高橋一彦議員（議会運営委員長）</p> <p>菅野 猛議員（総務文教常任委員長）</p> <p>森 豊議員（総務文教常任委員）</p> <p>松尾和仁議員（経済建設常任副委員長）</p> <p>続木敏博議員（経済建設常任委員）</p> <p>村上和繁議員（経済建設常任委員）</p> <p>秋田慎一議員（民生福祉常任委員長）</p> <p>戸田 悟議員（民生福祉常任委員）</p> <p>土岐政人議員（石炭対策特別委員長）</p> <p>松橋尚文議員（広報特別委員長）</p>

議会報告会開催概要（釧路地区）

開催日時	平成 25 年 10 月 24 日（木）18：00～19：29
開催場所	コアかがやき（研修室兼学習室）
参加人数	5 人
出席議員	<p>黒木 満議長</p> <p>月田光明副議長 ～質疑応答・意見交換進行役</p> <p>高橋一彦議員（議会運営委員長）</p> <p>金安潤子議員（総務文教常任副委員長）</p> <p>佐藤勝秋議員（総務文教常任委員）</p> <p>松尾和仁議員（経済建設常任副委員長）</p> <p>三木 均議員（経済建設常任委員）</p> <p>村上和繁議員（経済建設常任委員）</p> <p>大島 毅議員（民生福祉常任副委員長）</p> <p>石川明美議員（民生福祉常任委員）</p> <p>土岐政人議員（石炭対策特別委員長）</p> <p>松橋尚文議員（広報特別委員長）</p>
質疑応答の内容	<p>問：資料の一般質問の項目で、市側の答弁が掲載されていないのはなぜか。</p> <p>松橋：意見交換に時間を多く配分するため答弁の部分を省略したが、ご意見は今後の報告会に生かしていきたい。</p> <p>問：本日の来場者が少ないが、どういう広報をしたのか。</p> <p>松橋：前回のアンケート結果では、議会報告会を知ったきっかけとして、「広報くしろ」、「新聞報道」、「議員からのお知らせ」が多かったため、これらによる周知を行った。これらにプラスして、各町内会への案内を行った。</p> <p>問：質疑・一般質問に関して、①駅周辺の再整備、②老朽化空きビルの対策、③学校の体罰調査の3点について、それぞれどのような答弁だったのかを聞きたい。</p> <p>松尾：①平成 27 年度までに事業の方向性を定めたいとの答弁があった。②市が個人の財産に対して、公費により対応することに</p>

は慎重な姿勢をとっているが、融資制度について今後研究していきたいとの答弁があった。

三木：①の件については以前の経済建設委員会で、駅の高架化やまちなか居住に関する議論を行っている。

金安：③体罰は今回の調査以外に判明したものも含め、計3件あったと答弁があった。それぞれについては、解決済みという報告を受けている。重大な事案については、その都度教育委員会に報告がされるようになっている。また、教職員の研修も行われているとの報告を受けている。

問：他都市の事例では、学校と教育委員会との連携がうまくいっていないこともあるようだが、釧路はそのようなことはないということで、とらえてよいか。

金安：そのように理解している。

問：カジノ誘致構想については、市民の認知度はまだ低く、メリット・デメリットなどを明らかにし、市民の意見も聞いてもらえる場が必要だと思う。

村上：本会議において、カジノを含めた統合型リゾート（IR）の誘致について、市民の合意があるのかと質問されており、市長からは、国の法律が改正されないと誘致ができないものであり、法改正されていない今の段階で市民合意をはかることは難しいとの答弁があった。また誘致の焦点は阿寒湖畔となっているが、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構という地元の観光とまちづくりを担っている団体での年次総会で、IR誘致を事業計画に取り上げており、地元合意はとれていると考えている、との答弁があった。IR誘致には、観光業にプラスの効果があるというメリットがある一方、ギャンブル依存症の拡大の恐れというデメリットもある。ご意見を参考にしながら委員会でもしっかり審議したい。

問：阿寒のホテルで働く知人から、誘致に反対であっても、仕事上声を上げにくいという意見を聞いたことがあり、そこに問題があると思う。また、広報くしろやインターネットを介して市

	<p>民の声を聞く場面が多くなっているが、実際に会って伝えられるこういう場をたくさんの方に知ってもらいたい。</p> <p>月田：国の法律整備がこれからで、IRに関する具体的な情報がまだ提供されていないが、今後市民の意見を聞くことになった場合には、一人一人の意見をできるだけ丁寧に拾い上げていくように、また議会議論に反映できるようにしていきたい。</p> <p>問：美原インターチェンジの整備に関連し、災害が発生した時には、美原周辺の交通量が増大すると思われる。道路予定地となっている美原の緑地帯を含めて、インターチェンジ以外にこの地域の道路の整備計画に関して、経済建設常任委員会では議論されているのか。</p> <p>村上：都市計画道路全般については、交通量や防災の観点から現在見直しを行っている。</p> <p>佐藤：都市計画道路は、釧路市域が大きく拡大していた時代に、都市計画上で整備を計画していた道路である。しかし近年は人口も減少に転じて経済も低迷期に差しかかり、計画にとどまっている現状がある。このまま計画だけ持っても現実的ではないので、将来的見地から絞り込んでいく考えで進めている。市民の意見を聞く機会を設けながら、優先順位をつけて進めているので、もう少し時間を持って見ていただきたい。</p>
<p>市への 意見・要望</p>	<p>問：児童センターの除雪は現在、運営協力会や厚生員が行っているが、女性が多く大変であり、市で行うべきではないか。</p> <p>松橋：私も鳥取西児童センター運営協力会副会長をしているが、除雪はそれぞれの館の運営の中で、運営委員会が中心となって行うことをご理解いただきたい。ご意見としては承りたい。</p> <p>大島：ごみステーションでも同様の問題がある。現状は各町内会でそれぞれ対応してもらおうとのことだが、今後どういうことができるのかということ委員会ですっかり議論し、報告していきたい。</p> <p>問：児童館の除雪について、私の地元の町内会のように、児童館へ運営費を渡しているところもある。地域の宝である子どもを</p>

	<p>みんなで育てるという意味もあり、全部行政がやるのではなく、地元の力を使っているところもあるという実態を踏まえて、議員の皆さんには行政と市民のパイプ役を務めてほしい。</p> <p>月田：温かいご指摘、承りたい。</p>
--	--

議会報告会開催概要（釧路地区）

開催日時	平成 25 年 10 月 25 日（金）18：00～19：31
開催場所	コア大空（学習室）
参加人数	17 人
出席議員	<p>黒木 満議長</p> <p>月田光明副議長 ～質疑応答・意見交換進行役</p> <p>高橋一彦議員（議会運営委員長）</p> <p>菅野 猛議員（総務文教常任委員長）</p> <p>梅津則之議員（総務文教常任委員）</p> <p>鶴間秀典議員（総務文教常任委員）</p> <p>畑中優周議員（経済建設常任委員長）</p> <p>松尾和仁議員（経済建設常任委員）</p> <p>秋田慎一議員（民生福祉常任委員長）</p> <p>大島 毅議員（民生福祉常任委員）</p> <p>土岐政人議員（石炭対策特別委員長）</p> <p>松橋尚文議員（広報特別委員長）</p>
質疑応答の内容	<p>問：新聞等では給食費の滞納額が大きくなっていると報道されているが、議会としてどのような話し合いをしているか。</p> <p>菅野：未納が増加すると給食の質に影響してくるため、厳しく対応するよう議会でも論議されている。</p> <p>梅津：教育委員会ではそれぞれの家庭の事情を聞き、払えるのに払わない場合と、払うのが困難な場合とは、分けて対応していると聞いている。もしそうでなければ、議会の中でまた議論させていただきたい。</p> <hr/> <p>問：町内会の加入促進について、議会として議論はしているか。</p> <p>秋田：議員もそれぞれの地域で町内会活動に携わっているが、同じように悩んでいる。防災・高齢化社会という視点からも、自助・共助が重要となっていており、議会でも町内会の加入促進について取り組んでいきたい。</p> <hr/> <p>問：基礎学力保障条例は、全国的にも例のない先駆的な取り組み</p>

で、素晴らしいものだと感じている。またソチ五輪に向け、苫小牧では行政主導で選手の応援の事業をしているが、釧路市ではこうした取り組みを行う予定はないのか。

菅野：議会でもご指摘の件についての議論があり、それを受けて市役所ロビーに選手の名前を掲示するようになった。オリンピック開催が近づくにつれ、そういう取り組みは必要だと感じているが、それを民間でやるのか、市役所や議会がどう関わるかということについては、さらに考えていかなければならない。

畑中：女子アイスホッケーでは釧路に2チームあるが、市の対応としては、月4回の市営リンク使用料が無料となっている。また、市を挙げての壮行会をとっている思いはあるが、現在選手は練習に専念しており、時間的にも難しいというのが現状である。

問：苫小牧では既に選手を応援する取り組みが行われており、後れをとりすぎていると感じる。何とか市議会のほうで、実施に向けて方向性を見出せないかと思う。

月田：何ができるか検討し、前向きに取り組んでいきたい。

問：防災・減災について、海岸域が壊滅的になってしまうと消防分団は機能しなくなる。そうすると他の応援が必要となるが、他都市の消防分団の応援を頼むためには、市長からの要請が必要となる。現状で迅速な要請は可能か。また、備蓄されている物品に、救助のための照明器具や工具がほとんどないような状況である。行政だけでは整備が難しいので、家庭防災推進員、消防分団、町内会、社会福祉協議会などと連携した備蓄を行えないのか。さらに、東日本大震災では56名の民生委員が亡くなったが、補償が数万円という話である。議会での議論はあったのか。

菅野：備蓄については、市としては津波に関する国のシミュレーションが平成26年度に発表されるため、その内容が確定しないと具体的に動けないため、現在その情報待ちだとの見解が議会でも示されたところである。また、分団員の広域的な連携についてのルールづくりはまだ確立していない。内陸部との連携は

今後考えていかなければならない。

鶴間：内陸部との協定は必要と考える。また備蓄に関して消防署では、災害に対応する高度作業車を購入している。水難用ドライスーツ等の備蓄品を更新しており、消防団に対する配備も今後されていくべきだと思う。

秋田：民生委員の補償については、まだ議会での議論はない。一自治体での対応が可能かということもあるが、今後ご指摘も踏まえ、議会でも議論していかなければならないと考える。

月田：本年8月に、新たなシミュレーションを受けてハザードマップを作成、全戸配布され、緊急避難場所が示されたが、今後は食糧その他の資機材をどう確保するのかが議論となる。また、消防分団からも行政や議会へ要望等をおこなっていただきたい。

問：報告の中で、市立病院改築に係る臨時駐車場の話があったが、市立病院は普段から駐車できる台数が少ないが、その点についての議論はあるか。

秋田：改築に伴い狭くなる駐車場の補完については議論されているが、駐車スペースの増加については、今後議論していきたい。

問：国際戦略バルク港湾について、その後の情報が見えなくなっているが、どのような状況になっているのか。

畑中：今年度は若干の予算措置がなされているが、来年度の予算獲得に向け、国に対し要請活動をしている。西港近辺や別海町近辺の道路を見ると拡幅工事が行われており、バルク港湾の活用に向けて、後背地の整備が着実に進んできていると実感している。バルク港湾については、世界的視野で見た場合に、北極海を通る航路を使って短時間で欧米へ輸送ができる可能性もある。また、6次産業として別海の牛乳をそのまま輸送するのではなく、アイスクリームやチーズの製造工場を西港付近に誘致し、そこから製品を発送するという事も検討するなど、市議会としてもバルク港湾に関する取り組みについては一層努力していきたい。

問：春採湖の遊歩道が先の大雨で崩落し通行禁止となっているが、遊歩道利用者が歩いた形跡があり、仮歩道を設けて対応するなど単純に通行止めになればよいものでもない。また、いつまでに直すのか聞きたい。

畑中：私も現地を見たが、法面が崩れ危険だと認識している。先般、現地の測量を発注したが、業者が多忙のため着手できていない状況である。ご指摘の状況を踏まえ、再度、担当課に最低限歩けるようにしてほしい旨相談したい。

問：北方領土に興味があるが、ビザなし訪問はどのようにして参加できるか。

鶴間：国の主導で年間6回くらい実施されている。取りまとめは北方領土対策推進協議会という国の外郭団体で、返還団体の要望を受け参加者を振り分けている。ビザなしなので訪問を希望されるのであれば、そのような団体活動に携わることが必要になる。

高橋：訪問には国会議員の枠があるので、釧路管内の議員枠も設けてほしいという話を進めている。また、議員の会合等で署名活動をやっているところもある。

月田：個人としての参加は難しいと思われるので、団体の主催者の方に問い合わせてもらいたい。

問：根室で、大地みらい信用金庫が主導で海外にサンマ等の販売をしていると聞いた。TPP対策での取り組みとのことだが、釧路でも企業、金融機関、行政で出資して台湾などにアンテナショップをつくってはどうかとのアイデアもあるようだ。根室では金融機関の主導になったが、金融機関では難しいと思うので、行政主導でそのような取り組みは行えないものか。

畑中：釧路は釧路コールマインの関係で中国、ベトナムと強い関係を持っているが、炭鉱だけでなく水産物や農産物などの分野でも力を入れていかなければならないとの認識はある。11月にはベトナムや台湾を訪問するので、現地の状況や先方の反応などを見て、しっかり勉強してきたい。

<p>議会への 意見・要望</p>	<p>問：先般、日台親善協会の会合が開かれたが、台湾との信頼関係が つくられてきていると感じる。台湾では釧路との交流について様々な 取り組みを進めているとの話も聞くので、今後もより積極的な関係 づくりを期待する。</p> <p>月田：貴重なご意見、しっかりと受け止めさせていただき、議会での 議論に反映させていき、具体的な成果を上げていけるようにしたい。</p>
<p>市への 意見・要望</p>	<p>問：数年前、町内会館の補助金が半額となった際、説明に来た市の 担当部長に対し、市の関係者に町内会未加入の人が多いう旨を話した ところ、市長に申し伝えた上で、市職員の町内会加入を推進すると 聞いたが、全く伝わっていない状況であった。市長が未加入者に直接 言うべきと考えるが、それができないのであれば議会から働きかける べきではないか。また、社会福祉協議会と町内会が取り組んでいる 緊急連絡カードの普及の観点からも、町内会への加入促進に力を 入れるべきである。</p> <p>月田：担当の民生福祉常任委員長から、市長に対し確実に推進する よう伝える。</p>